

## コロラド州：小麦作柄と気象状況

2002年8月30日

### 2002年産コロラド冬小麦作柄概況：

コロラド州の2002年産冬小麦は、早魃の被害の中2002年7月21日に全州の98%で収穫が完了した。平年(過去5年平均)の同期の収穫完了状況は94%である。2002年産冬小麦の播種から収穫までの気象概況を振り返ると、冬季の降雪不足(2001年12月から3月の山岳部の降雪は平年の56%、山岳部の東側平原も3月は小麦圃場に殆どSnow coverが無かった状態)、4月乾燥・温暖気象(4月中旬までのunseasonable warm/dryそして下旬の寒波)5月の乾燥・強風気象、6月の乾燥・高温と言う最悪のパターンであった。同州の小麦主産地は州農業区分で言うと、East Central(2001年産では全州の65.5%を生産)とNorth East地区(20.6%)である。これらの地区の年間降水量は平均17.7インチ(NE)18.03インチ(E Cent)である。そして年間降水量の55~60%が4月から7月の降雨である。小麦は5月中旬から下旬に分蘖が完了し出穂期となる。小麦は土壌水分不足(5月下旬では州の約95%が、不足が著しく不足の状態)より生育が不十分のまま生殖成長に突入した。6月9日現在、95%の圃場(昨年同期:87%、平年:88%)で出穂していた。開花期の高温・乾燥は単位収量を激減の要因となった。その後も続いた乾燥・高温に因り粒の澱粉蓄積は悪く、結果として高蛋白・高灰分の小麦粒となった。

USDA 発表の2002年8月1日付けコロラド州冬小麦の生産予想：

Crop	作付面積 1,000 Acres	収穫面積 1,000 Acres	単位収量 bu/ac	生産量 1,000 bushels
2001年産	2,350	2,000	33.0	66,000
2002年産	2,350	1,650	23.0	37,950

作付け品種の動向：

	2000年産作付比率	2001年産作付比率	2002年産作付比率
Arkon	24.3%	24.4%	25.3%
Prairie Red	3.1	11.5	13.9
Tam 107	33.6	24.9	13.6
Jagger	2.1	2.9	6.7
Yumar	3.0	4.6	4.8

全州で15品種以上が作付けられており、これら15品種で全体の90%を占める。

2002年産冬小麦の品質：

蛋白質は昨年より平均1.0~1.5%程高く、13%未満の小麦は極稀である。小麦水分は低く8.15~10.24%(北東地区)、容積重は53~61lb/bu(昨年:58~63)と昨年より低い。又、1,000粒重も昨年より多少低い(NE平均26.44gr;昨年26.88gr)結果と成っている。夾雑物が昨年より少な目との報告もある。

ご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

以上

小川正晃 : Email [ogawa.max@omicnet.com](mailto:ogawa.max@omicnet.com)